

産地生産基盤パワーアップ事業(直接採択事業)の取組事例(R2~3年度:拠点事業者:熊本大同フーズ(株)) (加工・業務用青果物の一貫生産・供給体制構築の取組)(熊本県)

取組の概要

対象品目 : ほうれんそう、こまつな、みかん、不知火、いちご

主な取組主体 : 熊本大同フーズ株式会社

成果目標 : ①取扱出荷量の10%以上の増加
②総出荷量に占める加工・業務向け出荷量の割合を年平均3%以上の増加

導入施設等 : 農産物処理加工施設(冷凍加工工場、冷凍貯蔵保管施設)
農業用機械(ほうれんそう収穫機他)

ポイント

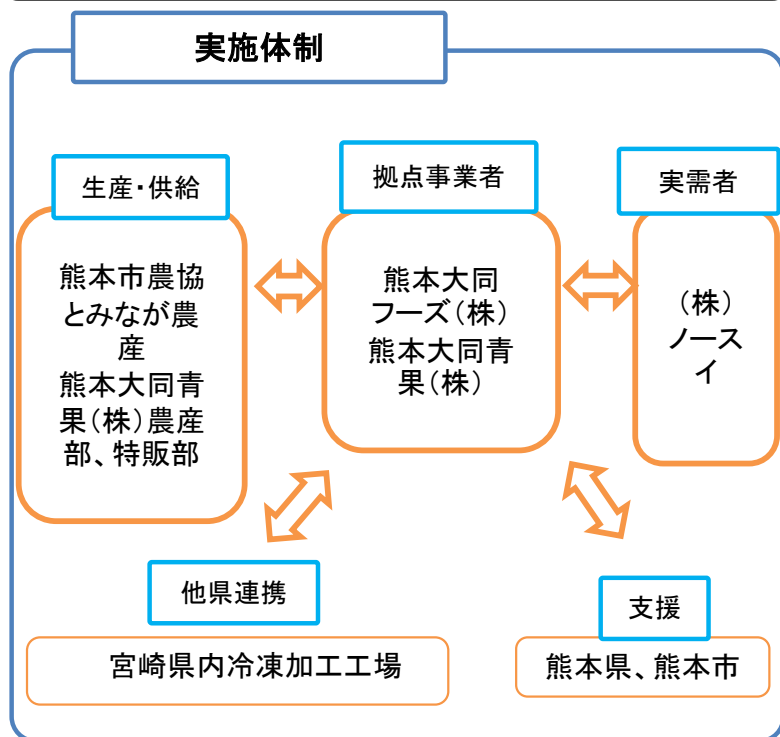
【現状と課題】

- ①生産安定・効率化機能
熊本県は全国有数の農業県であり施設栽培が盛んな地域であるが、露地栽培、特に加工用についてはノウハウが少なく技術体系構築や機械化が遅れている。
- ②供給調整機能
地元に大規模な加工施設が無く保存性が低い。そのため気象災害等の影響を大きく受けやすい等、供給が不安定である。
- ③実需者ニーズ対応機能
産地での供給体制、ISO22000取得の工場が不足。また実需者ニーズの吸い上げ、GAPの推進が必要。(GAP指導員資格取得済)

【目標年度の展望】

生産構造と国際環境の急速な変化の中、事業者、農業者、産地が協働し、生産の安定化、ニーズに対応した製品の安定供給に取り組み、国内外における新市場の獲得及び輸入シェア奪還を図る。

実施体制



期待される事業効果

【事業実施による直接効果】

- ・ISO22000を取得し、市場ニーズの高い冷凍加工品を全国へ販路拡大
- ・連携者へ農業用機械をレンタルし作業効率化、データ集約によるマニュアル化した生育指導を実施することで安定生産、栽培面積拡大(76ha)、収穫量1,500tを見込む。農業生産法人設立、自社農場による栽培ノウハウの蓄積による実質的な営農指導を実施

【事業実施による間接効果】

- ・新商品開発による付加価値製品製造
- ・新工場の建設による雇用の創出
- ・無加熱摂取製品製造による評価向上

